

あした TOMORROW

大阪市里親会*会報誌

家族の意味、親子の意味を一緒に考えたい。

1 2014 [H26]
January
月号 NO.01

着任のご挨拶

大阪市里親会 会長 梅原 啓次

新年あけましておめでとうございます。昨年は子どもの養育に、里親会の活動にご尽力賜り、心より感謝申し上げます。

昨年5月、34年数ヶ月の長き間、里親会の発展に寄与され、先頭に立って養育の模範を示されました、大阪市里親会名誉会長 宮川長生氏の後を受け、会長を務めさせて頂いて9ヶ月、この間、大阪市里親会理事の皆様、会員の皆様に支えられ新しい年を迎えさせて頂きました。誠にありがとうございます。

大阪市里親会は昭和32年8月30日に結成され、本年57年目を迎えます。57年の間には、社会も大きく変わり、養育の現場もその変化は著しいものであったと思います。先輩の里親さん方はその中、精一杯の愛情を捧げ里子を慈しみただだ子どもたちの成長と立派な社会人として生きる姿を楽しみに、養育にご尽力されたと思います。この先輩の心を現在養育に携わる我々の心としたいものであります。

大阪市には要保護児童は、1255人、その内訳は施設(乳児院・養護施設)1123人、養育里親99人、ファミリーホーム33人(25年3月末)、登録里親数は103家庭(25年10月末)です。これは社会的養護の体制は整っているといえますが、しかし、里親委託率は、全体の10.5%に過ぎず、厚生労働省が掲げる「全養護児童の3分の1」にはほど遠く、なかなか困難な課題であります。そういった上から、昨年アジア初日本の大阪で行われました「IFCO2013大阪世界大会」で、家庭養護を促進するには、里親、養育者、専門機関など関係者が連携・協働する必要があることを改めて確認しました。今後は、施設(里親支援専門相談員)、里親が連携し社会的養護が充実していかなければならないと思います。

大阪市里親会では、混迷を深める現代社会において、虐待

などの理由で実親と暮らせない子どもたちが増え、その年齢も高くなり、たいへん養育が難しくなる中、我々自身養育のスキルアップを目指さなければならないと思っています。そこで、大阪市より研修業務の委託を受け、講義型研修・参加型研修に取り組んでいます。私自身、ある里子との関わりの中で、自身の子育て経験だけでは、今の難しい子どもたちの養育には限界があると感じていました。そんな時、「コモンセンス・ペアレンティング」という養育技術に出会い、研修を受けトレーナーとなり、その後も日々研鑽を重ねています。その結果、里子との愛着関係を築き、日常生活において子どもとの関係を良好にし、教え導くために素晴らしい効果があることを実感しています。今後ますます難しくなるであろう子どもたちの養育の上に、研修を重ね養育技術を身につけていかなければならないと考えています。また、「子どもの健やかな成長には、温かい家庭生活を経験することがとても大切である」と言われています。そこで、実親と暮らせない要保護児童がより多く温かい里親家庭で育てられるよう、里親を増やす活動を各地域(学区など)で展開し、年1度は大阪市の各団体などを対象にシンポジウムを開催し、里親制度の理解と実際に里親になって頂けるよう積極的に活動を進めていきたいと考えています。

何卒、皆様方には大阪市里親会の活動にご理解の上、ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



退任のご挨拶

大阪市里親会 前会長（名誉会長）宮川 長生

私はこのたび平成25年5月19日開催の総会をもって会長を退任いたしました。昭和54年春、前任会長が急逝されたため、理事会の経験2～3年にしていけなくも会長に選出されました。以来34年間に亘って会長を務めさせていただくことになろうとは、夢にも思いませんでした。この長い間、大阪市当局及び児童相談所担当者をはじめ、多くの後援団体の皆さまや、全国里親会、近畿地区各里親会の同志の皆さん、本会会員の皆さんから多くのご指導やご支援、ご支持を賜りましたことに衷心より厚く御礼申し上げます。

この度新しい委員により機関紙が復刊されることになりました。以前に冊子の形で発行していた「あした」の名称を引き継いでいただくことになり、大変嬉しく思っています。

大阪市里親会は昭和32年8月30日結成されました。五代目会長として就任して3年目の昭和56年10月30日、第27回全国里親大会が大阪府、市、全国・府・市里親会の手によって大阪で、全国の里親や関係者約千人を集め、盛大に開催されました。会結成十周年、二十周年記念大会も先に行われ、その後の三十周年、四十周年、五十周年（平成19）の記念大会は区民センターなどを借りて、里親制度の重要性を外部に訴えるため民生児童委員や施設関係者を招いて盛大に開催してきました。後者3回の記念大会では式典に大阪市助役（副市長）にも出席いただきました。平成9年6月に開催した結成四十周年記念大会では、当時の伊東副会長を通じて関西芸術座に里親子をテーマにした創作劇の作成を依頼し、劇「おかえり！」は来賓と主任児童委員を含む約400名の満場に大きな感動を呼びました。この創作劇は今も、大阪市担当課を中心にした里親施策推進プロジェクト会議（平成20年開始）の市民対象の啓発広報イベントに再々上演されています。

法令又は施策関係では、昭和63年、民法第八百七十七条の二以下の十ヶ条に新たに「特別養子制度」が制定されました。大阪市は平成10年「児童施設等処遇向上加算事業」を新設しました。平成14年、国は増え続ける児童虐待に対応

するため「専門里親」制度の導入を決め、「里親の種類は養育里親、親族里親、短期里親及び専門里親とする」と発表しました。平成16年、児童福祉法を一部改正し、「里親」が独立の条文で明確に定義されました。（法



第六条の三)里親委託促進のため、平成18年国は児童相談所に新たに「里親委託推進員」を配置しました。平成21年度、養育里親手当が月7万2千円（2人目以降半額）に倍増額されました。里親手当についてはそれまで長い年数に亘って年1千円ずつ上げられ、ようやく3万4千円に達していたものですが、増えつづける要養護児童に対応するため行政、立法、有識者の意見が合致し、全国里親会を通じた里親関係者の運動が実を結んだものと思われま

す。機関紙としては昭和46年5月に濱田前会長らの努力で「あした」が創刊されたものの、途切れていました。私は会長就任後、前会長の遺志をなんとかしてあらわしたいと願い、57年8月「あした」第2号として復刊しました。役所や後援団体また会員の皆さまからのご寄稿をも頂きながら、記念誌を含めて十数回の年1回発行を続けていました。しかし私の本業に新事業が加わったことから、どうしてもこのために時間を割くことができなくなり、平成11年3月31日発行の第14号をもって休刊となりました。再復刊を一心に願いながらも叶いませんでした。名称「あした」の意味は、子どもたちは今は色々な事情を抱えて辛い思いをするだろうが、「あした」に希望をもって生きていってほしい、という願いを前会長がそこに込めたものであります。

梅原新会長は研修に重点を置きながら、力強く会を運営していただくと期待しています。皆さまから引き続きご指導ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。長らくのご支持ご支援を本当に有りがとうございました。

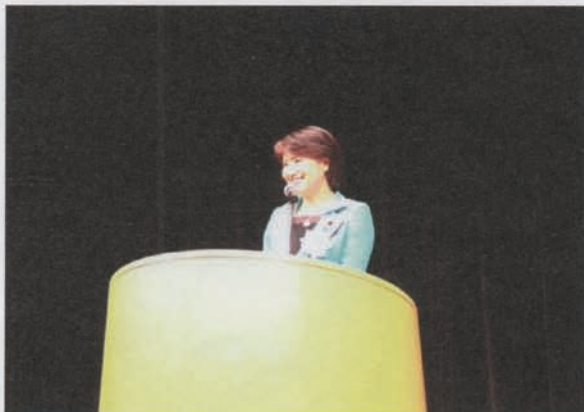
IFCO大阪世界大会を終えて

IFCO大阪世界大会が、9月13日（金）から9月16日（月）まで、大阪国際交流センターで開催されました。海外23か国から125人が参加し、国内外からの延べ参加総数はアダルト3240人、ユース468人でした。アジアで初めてのIFCO大会には、韓国、中国、インドからの参加者がありました。

メインテーマは「家庭養護の推進に向けて協働しよう」。初日の基調講演は、ジェファー・デビットソン氏の「国連指針＜児童代替的養護に関する指針＞と子供中心の社会的養護のあり方」でした。子供にとっての最善の利益のために、里親擁護がチームワークの基本かつ中心的存在として含まれることを話されました。

大会では2つの講演と5つのシンポジウム、分科会が57ありました。分科会会場では人が入りきれない会場もありました。今回、大阪の実行委員の皆さんは、大阪のお祭りと縁日をテーマに演出され、海外の方々が日本の文化に触れ、体験していただけるように工夫されました。日本の方々にも、また子供たちにも大変好評でした。

多くの出会いからエネルギーをもらい、改めて子供を中心とした社会的養護を模索しながら実践していこうと決意を新たにしました。次回は2年後、オーストラリアのシドニーで開催されます。



平成25年度の主な行事報告

第56回定期総会と里親子のレクリエーション

日時／2013年5月19日(日)

場所／ひらかたパーク

内容／総会(事業・会計報告、年間計画発表、役員改選)懇親、自由遊覧

参加／参加者 来賓等6名・里親等41名・高校生2名・中学生4名・小学生22名・幼児10名
総計85名

夏季研修会と里親子のレクリエーション

日時／2013年8月17日(土)～18日(日)

場所／ユニットピアささやま

内容／里親は、弘済のぞみ園施設長 下川隆士氏による研修会。子どもはプールとヨガ教室、温泉入浴、会食、キャンプファイア、花火 2日目／朝のヨガ体操、魚のつかみ取り、プール、バーベキューの昼食

参加／21家庭より里親ほか大人30名、高校生10名、中学生7名、小学生19名、幼児7名、来賓等4名、託児ボランティア15名 合計92名

IFCO2013大阪世界大会

日時／2013年9月13日(金)～16日(月)

場所／大阪国際交流センター

内容／基調講演、シンポジウム、分科会、ディナー

参加／約1300名(海外24か国120名を含む)。大阪市里親会より大人26名、ユース(15才～29才)10名、チルドレン・保育15名

里親サロン

市内4ヶ所(旭区、淀川区、住吉区、中央区)で各所1～3ヶ月に1回開催し、それぞれ4～8名の参加者で日常的な子育ての話題を話し合う。その他、講義型研修、参加型研修を数回開催。

【今後の予定】大阪市里親会シンポジウム「親と暮らせない子どもたちの今」

日時／2014年2月15日(土)

場所／大阪市立中央会館

内容／基調講演、里親体験談、元里子のお話、パネルディスカッション、個別相談会



編集後記

大阪国際交流センターで開催された家庭的養護の国際会議「IFCO(イフコ)2013世界大会」。分科会で目から鱗だったのはケビン・ブラウン氏の「ブランド作り」です。ロサンゼルス発だけに、明るくまぶしくあっけらかんとしていて、勇気を頂きました。一般にマイナスのイメージで捉えられがちな里子のイメージを、里子であったステーブ・ジョブズ氏、ジョン・レノン氏、ネルソン・マンデラ氏らを引き合いに、その有用性に自信をもとうというアイデアです。里子というネガティブなイメージをポジティブにかえていこうという発想には感心しました。そんな風に、見る角度を少し変えるだけで、プラスになることはいくらでもあります。これからもそんな前向きな発想で取り組んでいこうと思います。(和田)

発行所：大阪市里親会

発行：梅沢啓次 編集：藤本昌弘・安池富佐子・和田隆博
大阪市中央区森ノ宮中央1-17-5 こども相談センター内
電話：06-4301-3100 ファックス：06-6944-2060